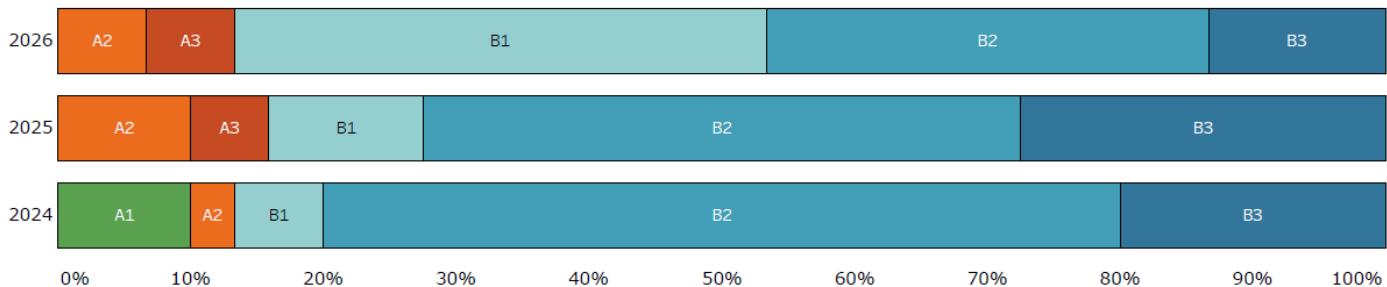


2026年 駒場東邦 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようにになります（Aは基礎的な知識・技術、Bは論理的な思考力が問われる問題。数字が大きいほど難度も高い）。高度な論理的思考力が求められるB2、B3の問題の割合が減り、取り組みやすい印象を受けました。



記憶している限り、2024年、2022年はかなり手ごわい問題が並んでいたと思います。気になったので、過去の合格者平均点を調べてみると右のようになっていました。2026年の合格者平均点は90点を超えてくるのではないかと思います。そのため、確実に得点しておきたい問題を落としてしまうと、大きな痛手となります。

2026年は、立体の切断はありませんでしたが、平面図形、立体と水位、作図、場合の数と、駒東頻出の分野が並びました。とりわけ、作図の対策は欠かせません。 (120点満点)

2025年	84点
2024年	66点
2023年	90点
2022年	42点
2021年	73点

大問1は、例年通り一行題の構成でしたが、例年よりも問題数が少ない印象を受けました。(1)は、分母が2026となります。分配法則を用いて確実に得点したいです。(2)は、仕事算でした。2人とも6時間仕事をしている点に着目します。(3)は、駒東頻出の平面図形でした。DEとCBを延長して相似な三角形をつくって考えます。大問1はすべて落とさないようにしたいです。大問2は、立体と水位の問題でした。立方体の水そうの中に立方体の積み木を積み上げ、水を入れていきます。(1)は、水そうを正面から見た図に置き換え、水位変化の様子を捉えていきます。(2)はつるかめ算を利用します。計算ミスに気を付けて、確実に得点しておきたいです。

大問3は、図形の回転でした。おうぎ形の移動となります。駒東志望者であれば一度は取り組んだことのある内容だと思います。(1)は確実に得点をしたいです。(2)は、頂点Cまでの動きをしっかりと捉えます。後は同じ動きを2つ描くだけとなるので、おうぎ形の中心角をミスしないように気を付けます。この作図を手際よく処理できれば、後続の大問4に時間を回すことができます。大問4は、約束記号を利用した場合の数でした。この問題にどれだけ時間を使えたかで差が付いたと思います。(2)までは確実に得点して、(3)にじっくり取り組むか・他の見直しに時間を回すかの二択なのかなと思います。

例年に比べてかなりハードルが下がった印象を受けました。大問4(3)を除き、どれも得点しておきたい問題と思います。今回は高得点勝負が予想されるため、大問4(3)を見送り、残りの時間を見直しに当て、失点を防ぐ方が賢明かもしれません。